

文献紹介

小野寺 淳・小田匡保・野積正吉・川村博忠 編
『シーボルトが日本で集めた地図（地理61巻11月増刊（通巻738号））』

古今書院 2016年11月 123頁 2,676円＋税

シーボルト（Philipp Franz von Siebold）が日本より多くの資料を持ち帰ったことは周知のとおりである。彼のコレクションは江戸時代の日本を知る好資料であるため、これまで多くの研究者によって着目され、紹介されてきた。

シーボルトが日本で蒐集した地図は、オランダのライデン大学図書館をはじめ、ライデン国立民族学博物館、イギリスの大英博物館などに所蔵されている。ライデン大学図書館はシーボルトが初来日の際に収集した地図を多数所有しており、その一部は大学に隣接するシーボルトハウスにて一般公開されている。従来の研究には第一次収集の地図について概説されたものがあるが¹⁾、その詳細は不明瞭な点が多かった。評者が2014年に同所に立ち寄った際には、全ての地図の概容を把握できるような図録があればと感じた。きっと多くの研究者がこれと同様の印象をもったことであろう。本書は待望の書籍化といえる。

本書は平成19～21年度基盤研究(B)「ライデン大学所蔵シーボルト国絵図の地図史研究」（代表：小野寺淳）、平成22年度基盤研究(B)「ライデン大学所蔵シーボルト収集古地図の研究—江戸時代の地図による日蘭学術交流—」（代表：小野寺淳）の研究成果によるものである。これらの研究を通して、ライデン大学図書館の地図コレクションの原本調査と写真撮影が実施された。今回こうした形で情報が公開され、共有できることは研究をする上でも有益である。

本書は大きく分けて、次の4つのパートから構成される。すなわち「国絵図」、「世界図・日本図・蝦夷図」、「地域図・都市図」、「解説」である。

「国絵図」には25か国31点、「世界図・日本図・蝦夷図」には14点、「地域図・都市図」には17種類37点の図版が、1頁ないし見開き2頁で掲載されており、同一のページに地図の特徴や、国内に残存する類似の地図との比較といった説明がなさ

れている。紙幅の都合上、図版の細かい文字の判読が困難なものも含まれる。しかしながら、図版が大きく掲載されているため、地図の全体像を把握しやすい。

本書に収められた図版はすべてライデン大学図書館に所蔵されているものである。各ページの冒頭タイトルには、請求番号と資料名が記載されており、例えば、山城国であれば「Ser.255 山城国絵図」と記されている。各図版に関する説明書きや「シーボルト第一次来日時の収集地理資料リスト」で確認すると、「Ser.255」がライデン大学図書館における資料の請求番号であることがわかるが、本書を一瞥しただけでは判断がつきにくい。そのため、請求番号であることを示す断り書きが巻頭に一言あってもよかったかもしれない。

「国絵図」に該当する地図には、江戸幕府撰国絵図の系統のものが含まれる。大型の地図のため、広い閲覧スペースを要する上、全体写真を撮影することは容易な作業ではない。本書には地図全体を示す図版が掲載されている点で、地図の詳細な分析が可能になるであろう。

吉田や船越により、シーボルトが収集した国絵図には慶長国絵図や正保国絵図の写本が含まれることが指摘されているものの²⁾、各地図の詳細な分析に関しては不明な点も多かった。今回の原本調査を通して、手書きの彩色国絵図は慶長国絵図や寛永10（1633）年の国絵図、寛永15（1638）年の国絵図の系統も含むが、その多くは正保国絵図の系統であることが判明した。とはいえ、幕府へ献上された正保国絵図は焼失してしまったため、寛文期に再徴収された。本書にはいずれの地図の写本も収録されている。また、正保国絵図の系統とされる「佐渡国絵図」は、これまで日本に残存しておらず、新発見の地図である。このように国絵図の原本調査は国絵図の系譜を把握する上でも大きな成果をあげた。

「地域図・都市図」に挙げられた地図の解説を読んでいると、類似の地図ないし同一の地図が日本国内に残存していることがわかる。こうした地図の描写内容の整合性、系譜を詳細に分析していくのも面白いであろう。

「解説」は「シーボルトが日本で収集した地図」, 「シーボルト第一次来日時」の収集地理資料, 「シーボルト第一次来日時」の収集地理資料リスト, 「図版英文解説」, 「シーボルト収集地図に関する参考文献」より構成されている。

「シーボルトが日本で収集した地図」(小野寺淳)では、ライデン大学図書館のシーボルトコレクションのうち、特に手書きの彩色国絵図に重点を置いた言及がなされている。同大学図書館での調査の結果、手書きの彩色国絵図21点の全容が明らかとなった。江戸幕府撰国絵図の写本は、佐渡・三河以西、主に西日本の国絵図であること、また江戸幕府撰国絵図とは別系統の国絵図の写本も同コレクションに包含することも判明した。

「シーボルト第一次来日時」の収集地理資料」(小田匡保)では、シーボルトが刊行した目録(シーボルト・ホフマン目録)と照合しながら、原本調査が行なわれ、シーボルトの第一次滞在時の地図を同定していく作業の過程が説明されている。ラテン語目録と日本語目録の見出しが一致していなかったり、掲載資料がすべてシーボルトの収集品ではなかったりしたため、同定作業には大変な労力を費やしたことがうかがえる。

シーボルトコレクションを所蔵する他の所蔵機関において原本調査を行った国文学研究資料館や国立歴史民俗博物館の成果も取り入れながら³⁾, 世界各地の第一次収集の可能性のある資料を一覧表にまとめたものが、「シーボルト第一次来日時」の収集地理資料リスト」である。第一次来日時に

オランダへ持ち帰ったと考えられる図を峻別できるように、請求番号に下線が引かれている。

海外の研究者へ研究成果を配信することを意識して、各地図には「英文解説」が付されている。

巻末の「シーボルト収集地図に関する参考文献」にはシーボルト関係地図の主要参考文献が挙げられている。

総じて、日本に残存せず、新たに発見された地図も掲載された本書は、ライデンを訪れて調査することが困難な研究者、あるいは後発の研究者の門戸を広げる手助けともなるであろう。今後、各地図の詳細な分析、シーボルトの地図収集活動の検証といった研究の進展も期待される。

(喜多祐子)

〔注〕

- 1) 船越昭生「シーボルトの第一次来日の際に蒐集した地図」(藪内健次・宮崎道生編『シーボルトと日本の開国 近代化』続群書類従完成会, 1997), 71-77頁, 86-92頁など。
- 2) 吉田敏弘「シーボルトがもちかえった慶長和泉国絵図」『國学院雑誌』97-4, 1996, 36-37頁。前掲1) 90-91頁。
- 3) 人間文化研究機構国文学研究資料館編『シーボルト日本書籍コレクション—現存書目録と研究』勉誠出版, 2014。青山宏夫編『オランダ・ドイツに所在するシーボルト関係地図資料』人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 2016。